

1 開催年月日 令和6年1月15日(月) 11:00~12:00

2 開催場所 宇都宮東武ホテルグランデ

3 委員の出席 委員総数 6人
出席委員数 6人

(1) 出席委員の氏名 小笠原 伸 (委員長)
君島 理恵 (副委員長)
青木 敬信
新井 啓泰
高橋 淳
宇津 善行

(2) 放送事業者側出席者 鈴木 峰雄 (代表取締役社長)
佐藤 望 (放送部長)
渡辺 裕介 (放送部)

4 議題 (1) 番組の試聴及び意見交換
(2) その他
(3) 次回開催日程について

5 議事の概要

(1) 番組の試聴及び意見交換

令和6年1月1日(月) 18:00から放送した55分の特別番組「The Sound Of NIKKO
～蓄音機の世界～」について、試聴と意見交換をおこなった。

事業者：ビクター社が誇るアコースティック蓄音機の最高傑作ともいえる1926年製の名機
「ビクトローラ・クレデンザ」を擬人化して展開する音楽番組。

日光山内にひっそり佇む、古い洋館のレストランを舞台に、ミュージックシェフ「ビク
トローラ・クレデンザ」が、年代物の蓄音機を使った極上の音楽レシピで、お客様をおも
てなしするというコンセプト。音源は実際に蓄音機で再生したレコードのものを現地で
録音しているもので、どこか遠い昔にタイムスリップしてしまうような雰囲気も醸します。
通常、金曜の夕方に放送している10分コーナー「The Sound of 明治の館」の新年特別
番組として放送しました。

【 番組の試聴 】

委員：現在は、よりクリアな音が求められる風潮があるが、蓄音機のモノラルの音に、聴き入ってしまう番組であった。ラジオ局ならではの「音」にこだわった点もよかった。このような貴重な蓄音機を持つ日光や明治の館の「遺産価値・歴史的価値」を、地元のラジオ局で示せることには意義があると思う。

委員：蓄音器のメンテナンスを担当するマック氏の言葉が聴きづらい点は気になった。ユニークな内容に興味はひかれるので、なおさらじっくり聞きたかった。録音環境で、もうすこし聴きやすくする工夫があるとよかった。

委員：番組の進行役を「擬人化した蓄音器」が務め、機械が人や音楽を客観的に見るという部分が面白い演出だった。

委員：「足音や鳥の鳴き声といった効果音」は、普段のコーナーと同様なので、通常の放送を聞いていれば、演出の意図は分かるが、初めて聞く人のためにも、もう少し説明があると良かった。

委員：蓄音機のネジを巻く音がリアルに聞けたのは、魅力的だった。スタジオ収録ではできないことなので、非常に効果的な演出であったと思う。

委員：「番組をきっかけに、興味を持った一般リスナーが現地で蓄音機の音源を聞けるのか」といった疑問が生じたため、この点についても案内があってほしかった。

(以上)

(2) その他

- ・特になし。

(3) 次回開催日程について

次回の開催を 令和6年3月18日(月)とすることについて、全出席委員の了解を得た。

6 答申または改善意見に対してとった措置および年月日
なし

7 答申または意見の概要を公表した場合、公表の方法および年月日

- (1) 放送 1月28日(日) 19時55分の「レディオベリーインフォメーション」内
- (2) 書面 本社事務所に備え置き
- (3) インターネット エフエム栃木ホームページ内

8 その他の参考事項
なし